

IV-364

地域景観イメージの抽出に関する研究I

ー茨城県つくば市住民の地域イメージに関する意識調査を通じてー

建設省土木研究所 正会員 田中奈美
同 上 正会員 丹羽 薫

1. 研究の目的と方法

景観への関心が高まる中、幅広く行われている景観に関する研究は、建築物や街路景観等に代表される視覚を中心とした知覚で直接、間接に捉えらる程度の空間を対象としたものと、都市や地域といった面的広がりをもっている空間を対象としたものとに大別される。本研究は、後者の研究同様に一定の広がりをもっている地域景観を対象とし、空間の実態を保持しながら、客観的分析に耐えられるようにその景観の特性抽出を行い、地域景観のあり方について知見を得ることを最終的な目的とする。このための方法として、人々の意識から得られる定性的な地域景観イメージの把握を行うこと、物理的な空間的特性に着目して定量的に把握することの2側面を通じて考察を行う。本報告では茨城県つくば市を対象地域として定性的な地域景観イメージの抽出を目的とした意識調査結果から、地域概念によるイメージの抽出および土地利用形態の量的印象の2側面について考察を行った。

2. 調査概要

アンケート調査は、1996年2月上旬に実施し、住民台帳から抽出したつくば市居住者2,000人を対象に郵送で配布、回収をおこなった¹⁾。回収部数は1,125部、回収率は56.3%となった。調査対象集団の属性は、男性495人（44%）、女性621人（55.2%）と若干女性が多く²⁾、平均年齢は41.8才、既婚者833人（74%）、未婚者265人（23.6%）、家族人数は平均3.8人である。職業は会社員が322人（28.6%）と最多で、次いで専業主婦231人（20.5%）、公務員127人（11.3%）、自営業109人（9.7%）である。平均居住年数は17.9年である。

3. 地域概念によるイメージの抽出

ここでは、既成の地域概念として「自然地域」、「農村地域」、「リゾート地域」、「都市郊外」、「地方都市」、「観光地」の6項目を提示し、つくば市をこれらの地域概念に照らしてどのように認識しているかを『明らかにそうである』から『全くそうは思わない』までの

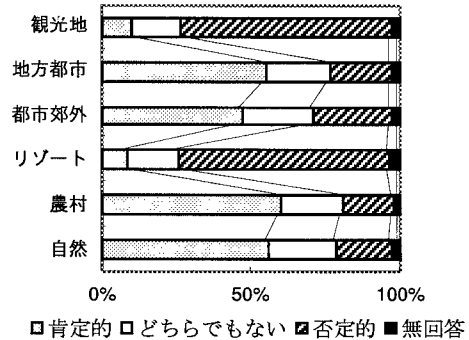


図1 地域概念によるイメージ

間に設定した5段階の選択肢から回答してもらった。指摘率で『明らかにそうである』と『そういう感じがする』を合わせた【肯定的意見】、『全くそうは思わない』と『そうは思わない』を合わせた【否定的意見】として集計した結果を図1に示す。【肯定的意見】に着目すると、「農村地域」が最も多い55.7%となり、次いで「自然地域（55.7%）」、「地方都市（54.8%）」、「都市郊外（46.9%）」への指摘率が比較的高くなっており³⁾、こうした地域概念イメージでつくば市が捉えられていることがわかる。一方、【否定的意見】では「観光地（71%）」、「リゾート地域（70.8%）」への指摘率が非常に高くなっており、つくば市はこうした地域概念イメージとは異なると考えられる。

4. 土地利用形態によるイメージの抽出

ここでは「山林・荒地」、「田・畑」、「工業地区」、「住宅地区」、「商業・業務地区」、「道路」、「公園・緑地」、「都市施設地区」、「河川・湖沼」、「造成中・空地」という10種類の土地利用形態を示し、これらの量的な印象を『非常に多い』から『非常に少ない』の間で設定した5段階の選択肢から回答してもらった。図2に示すように『非常に多い』と『やや多い』を【多い】、『非常に少ない』と『やや少ない』を【少ない】として集計した。【多い】に着目すると、「田・畑」への指摘率が最も高い72.4%となっており、次いで「公園・

緑地（66%）」、「山林・荒地（57.5%）」、「道路（53.2%）」となっている。「道路」と「造成中・空地」の指摘率の間には有為差がみられたので、土地利用形態的につくば市において多いと認識されているのは上述の4土地利用形態であるといえよう。一方、【少ない】に関して顕著なのは「商業・業務地区（54.8%）」となっている。

5. 地域概念イメージと土地利用形態

以上の考察ではつくば市が地域概念イメージ、土地利用形態の量的認識からどのように捉えられているかの傾向を明らかにしてきた。ここでは地域概念イメージと土地利用形態に対する認識の間の関連性をみることを目的に、地域概念6項目、土地利用形態10項目の計16項目間の偏相関係数を求め、無相関の検定を行った（表1）。この結果をつくば市において肯定的とする指摘率の高かった地域概念イメージでみると、『農村地域』は「山林」、「田」、「造成中」の3項目との間に正の相関が「都市施設」とは負の相関がみられる。『自然地域』は「山林」、「田」、「工業」、「住宅」、「河川」の5項目と正の相関、『都市郊外』は「山林」、「田」、「造成中」を除く7項目と正の相関がみられる。『地方都市』は都市郊外と相関の高い項目から「公園」を除いた6項目と正の相関があることがわかった。一方、つくば市では否定的なイメージである『観光地』は「田」と「造成中」を除く8項目と正の相関がみられ、『リゾート地域』は「工業」、「道路」、「河川」を除く7項目と相関があるが、「田」、「公園」とは負の相関である。

この結果は地域概念を用いて抽出されたイメージが地域の空間的な状況を表わす土地利用形態の量的な状況への認識と関連が深いことを示しており、土地利用形態を地域景観イメージの特性抽出の1指標として用いる可能性を示唆するものといえよう。

6. まとめ

- (1) つくば市は「農村地域」、「自然地域」、「地方都市」、「都市郊外」の4地域概念イメージで肯定的に捉えられていることがわかった。
- (2) 土地利用形態に対する量的な印象では「田・畑」、「公園・緑地」、「山林・荒地」、「道路」が多いと認識されていることが明らかになった。

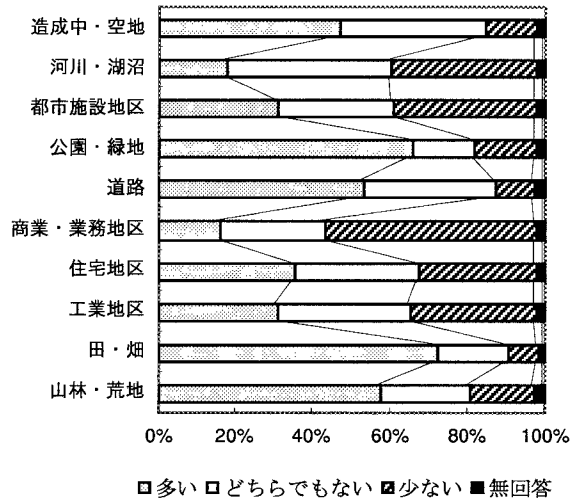


図2 土地利用形態の量的印象

表1 地域概念イメージと土地利用

	地域概念						土地利用形態									
	自然	農村	リゾート	地方都市	都市郊外	観光地	山林・荒地	田・畑	工業	住宅	商業・業務	道路	公園・緑地	都市施設	河川・湖沼	造成中
自然	-															
農村	**	-														
リゾート	**		-													
都市郊外	**	**	*	-												
地方都市	**	**	**	*	-											
観光地	**	**	*	*	*	*	-									
山林・荒地	**	**	*	*	*	*	*	-								
田・畑	**	**	*	*	*	*	*	*	-							
工業	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-						
住宅	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-					
商業・業務	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-				
道路	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-			
公園・緑地	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-		
都市施設	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	
河川・湖沼	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-
造成中	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

無相関の検定 * : 5% ** : 1%

(3) 地域概念と土地利用の関連分析結果から、地域概念にはそれぞれ正または負の相関が高い土地利用形態がみられた。

注

- 1) 市内最大地区である谷田部地区居住者52,692人から抽出を行った。抽出率は3.8%となり、市全体（人口145,451人）では1.4%となる。
- 2) 平均値の差の検定を行った結果有為差が認められた。
- 3) 「都市郊外」への指摘率は46.9%で半数以下であるが、「観光地」との母比率の差の検定を行った結果有為な差が認められた。